

1事例目	2事例目
<p>市民センターの「寄せ植え講習会」に参加したことがあるが、おひとりでは大変な作業が多く他の参加者も自分のことで手いっぱいだったので、補助をする人がいれば良いのに、と思った。少し手助けをすれば十分楽しめると思った。</p>	
<p>不登校児との関わりのアイデアはとても良いと感じた。大学生の中にも地域支援や交流を持ちたいと思っている学生は一定数いると思うので、学生との関わりがもてる機会があるといいと思う。若者もそのような会を通して社会や福祉に興味をもつことができると思う。</p>	
<p>(両事例?) 高齢者の方がそれぞれの特色を活かして活動できる場をつくる事はとても大事だと感じた。もっと多くの場をこれから作ることができれば周南市がもっと良い町になると思うので、みんなで考え続ける事が大事と思う。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の通学路で子どもたちを見守ることで役割の持てる生活を送ることができる。協議体を通じてつなげてもらう。 ・自宅サロンをぜひ再開してほしい。県住で『一人暮らしの会』や「子どもを集めて何かの会(宿題を見る、歌の会、編み物の会など何でも)』など、チラシを貼るなどして自宅で開催する。 ・自宅で少人数の百歳体操を開催する(熊本地区にはそういう方がいる)。 ・県住に集会所があれば「いつでもだれでも来ていいカフェ」のマスターになってもらう→認知症カフェにもなるのでは。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1事例目の方みたいに何か人のためにしたいと思っている人を探して、傾聴ボランティアをしてもらう。 ・地域おこしに各地でやっているフォトコンテストに出展してみる ・外出支援は社協のボランティアにお願いしてみる。 ・興味があることを実行に移せたら、そちらに気が向くので、近所でおしゃべりする暇もなくなるかも。
<ul style="list-style-type: none"> ・本人が参加できそうなボランティア活動が見つければ良いなと思った。 ・自宅内で行える体操や歩行数を記録する事で歩行や外出状況を改善し、ゴミ捨ての再開や地域のイベントに参加しやすい状況を作り上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・さくらの写真の投稿…桜の木のあるDS, DCを利用し、写真を撮る→特養等、笑顔の写真コンテスト等あるので、それに応募する。 ・自宅訪問型のお話ボランティアの提案や、イベントや地域の集まりの際の写真を持参し、写真撮影や写真展覧への意識付けに繋げる。
<p>両事例とも独居で、話をしたり聞いてもらう場が必要ではないかと思った。 自分の趣味を活かせる講座や話し合いの場所のサロン、通所リハビリの活用により、本人たちの思いを満たすことができるのではないかと思った。 地域によって活用できる資源も差があることも課題だと思った。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・健診の受診等をきっかけに信頼できるかかりつけ医を持ち、骨粗しょう症の予防など医療面でのサポート体制も整えると良いのではないだろうか。 ・認知症サポーター養成講座などの機会があれば受講をお勧めしてはどうだろうか？本人の活動の幅が広がるのではないかと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全に訓練が出来る場所として、通所系のサービス利用をお勧めしてはどうだろうか。
<p>集合住宅に住まわれているとのことなので、集会所でサロンや百歳体操の日以外にも日常的にカフェのような形でみんなが集えるようなことができればいいと思った(軽い食事や読書、おしゃべり、編み物等いろいろなことを気軽に集まってできるイメージ)。</p>	<p>近所のよく話をされる方々に、傾聴のコツや話を切るポイントなど素人でもできそうな技が共有できれば、みんながストレスフリーで話しやすくなるのではないかと思った。</p>
<p>近所の公園や移動販売の集まる場所で、一人暮らしの方や虚弱な方などに声をかけお茶会を開催する。 散歩の時にゴミ拾いもしてみる。</p>	

	<p>移動サロンというアイデアが出ていたが、それを周知できることができれば、その場所に“お話ボランティア”や“傾聴ボランティア”の方をマッチングできるとよいと思った。社協のFBやインスタで可能な限りの情報をアップしてマッチングできると興味のあるフォロワーが気軽にボランティアできるかも。</p>
<p>移動販売車でお買物の際、近所の人と声を掛け合って、購入したお弁当やおやつと一緒に食べながらおしゃべりができる場所をご本人が提供する。週1回とか隔週とか開催日時を決めていれば予定が立ちやすいと思う。誰かと一緒に食事をするのは楽しいし、食も進みそう。</p>	<p>気持ちよく話を聞いて下さる傾聴ボランティアが良いと思う。またはシルバーサービスを利用して昼食と一緒に摂るというのはどうだろう。</p>
<p>自身の経験(サービスCを利用した自分の生活がどのように変化したかなど)を今後サービスCを利用される予定の方々に対して体験談を伝える場を提供できるような機会があれば良いかと考える。</p>	<p>目標を妨げているのが本人の歩行能力だけでなく意欲や消極的な気持ちだった場合には、それらを緩和させていく為にも、同じ目標を本人だけでなく多職種で共有し、みんなで本人を支えているという関わり方や言葉かけで応援していく方法も良いかと考える。</p>
	<p>市民センターの「子ども食堂」等のボランティア活動に誘ってみる。興味関心チェックシートで「孫、子供の世話をしてみたい」とあったので。ボランティアの方や子どもさん達とお話もできると思うので。</p>
	<p>文化活動に興味、意欲を持っておられる為、地域の教室活動に参加してみることができると良いと思う。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・興味や関心事が多く、話好きな人という事で、お試しからでも良いので通所サービスを利用してみても良いかもしれない。 ・高齢者を対象にした展示会(写真や絵画等)が定期的にあれば、生活の中での意欲向上につながられるかも。
<p>同じように圧迫骨折をされた方や同じ病気の同年代の方等、集う機会があると良い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地区に同じ趣味(写真)をもっている集まりがあると良い。 ・市広報に写真を掲載する機会があると良い。
<p>集合住宅の共有スペースの花壇に花を植えて世話をされていたのも、人に喜んでもらえる活動がしたいという気持ちからであったのではと思う。同じ住宅に住んでいる方で、一緒に花の世話をしてくれる人を見つけて、体に無理なく環境美化活動に参加できればと考える。ちょっとした困りごとなどを、近隣住民同士で相談し合える機会にもなるのではないだろうか。</p>	
<p>(両事例?) ・現在、コロナにより休止しているいきいきサロンもあるため、5類に移行後、徐々に再開できるようなサポートがあると良いと思う(一旦休止すると再開するタイミングが難しいと思うため) ・通所系サービスや入所施設へ話を聞きに行くボランティアなど、窓口があると良いと思う(したい方が分かりやすい窓口)</p>	
	<p>写真や作った作品を市役所や図書館等に展示することで、見てもらっていることが実感でき、意欲が向上するのではないかと考えた。</p>
<p>地域で「子ども食堂」のような「喫茶店」をつくり(集会所を利用したりして)、喫茶店で世話役をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「写真クラブ」を立ち上げて、近所に会員で写真を撮りに行く。 ・他市の社協で以前、独居の方に電話をかけてくれるサービス(あんしんコール?おげんきコール?)があったが、見守り電話のようなものがあると良いかと思う。

- ・身近な活動としては、小学校登下校の見守り活動。
- ・児童クラブを訪問し、子どもと一緒に活動する(絵を描く、歌を歌う、紙芝居等)
- ・市民センターで講座を体験。

- ・市民センターの講座に参加し、興味のあることを体験する。
- ・社交性もあり、楽器演奏のサークルに参加してみる。
- ・多職種の方がつながっていることを伝え、精神面での安定を図る。